

東京大学ヒューマニティーズセンター 第14回オープンセミナー

「恋愛歌人」としての和泉式部と女人往生 —近代以後の和泉式部伝における「くらきより」歌の評価—

▶ 2019年7月26日（金）17:00 - 19:00

入場無料 | 事前登録不要

▶ 東京大学 伊藤国際学術研究センター 3階 中教室

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/iirc/ja/access.html>

報告者：永井久美子（総合文化研究科・准教授）

ディスカッサント：菅原克也（武蔵野大学・教授）



菊池容斎『前賢故実』より

【概要】

和泉式部は、近代以後も数多くの歌人や評論家を惹きつけてきた。多くの評伝が生み出され、実証的な人物研究が進められた一方で、式部には時代が求める歌人像が多分に投影された。与謝野晶子以降の評伝に、式部の男性遍歴に特に注目する傾向があり、「情熱的」で「奔放」な恋愛歌人としての人物像が強調されがちであることは、先行研究でも指摘されている。

和泉式部をめぐっては、近世以前、女人往生を遂げた伝説も広く知られていた。式部の信心は、近代以降、恋多き人生との関係でどのように語られたのか。勅撰集たる『拾遺和歌集』に入集した名歌「くらきよりくらき道にぞ入りぬべき はるかに照らせ山の端の月」の近現代の評伝における評価を比較することを通して、実証研究における信仰の語られ方、恋愛歌人として式部に求められた人物像のあり方を考察する。

問合先：東京大学ヒューマニティーズセンター事務局

Tel: 03-5841-2654

E-mail: humanitiescenter.utokyo@gmail.com

URL: <http://hmc.u-tokyo.ac.jp/ja/>



ヒューマニティーズセンター
Humanities Center